

書 評

アイオワ州立大学農業・経済調整センター『労働移動と農業人口』

Iowa State University Center for Agricultural and Economic
Adjustment, *Labor Mobility and Population in Agriculture*,
Iowa State Univ. Press, Ames, Iowa, 1961, viii+231 pp.

労働移動と農業人口と題するこの書は、アメリカ Iowa 大学附属の研究所である Center for Agricultural and Economic Adjustment において1960年11月8日～10日の三日間に亘り開催された“アメリカ農業の調整問題に関する会議”の諸報告をとりまとめたものである。この会議は、農業における労働力供給および農業からの労働力移動に関連する諸問題を検討するために開かれた。Heady はその主な問題点をつぎのようにまとめている。

「農業所得を非農業所得の水準にまで引き上げるための手段として、現在までとられて来たような調整方法がつづくばあい、あとどれ位の農業労働力の減少が生ずるだろうか?」「移動者の性格は? 彼等是非農業部門の仕事で成功し得ただろうか?」「移動は送出農業地域および受入れ都市地域にどのような影響を与えたか?」「農業における低所得者に有望な所得機会を与え、彼等の個人的能力について反省させるために労働市場はどれだけ役立っているか?」「このようにして農業におけるよりもより大きな所得機会を与えられた人々の移動を促がすためには、どのような公的援助および諸機構が新たに形成されあるいは改善されねばならないか?」「低所得からの逃避手段として移動という方法をとることができない、あるいは、とるべきではない人々に対し、どのような補償機構が必要か?」「商業的農業をめぐる主要問題の解決のために移動に代る方法が何かあるだろうか?」これらの諸問題に対する解答および研究上の作業仮説をうることがこの会議の目的だった訳である。

以上の趣旨にしたがい、本書には次の21の論文が寄せられている。

1. D. G. Marshall: 近代社会における移動の性格と役割 2. Larry Sjaastad: 職業構造と移動パターン 3. Varden Fuller: 農業労働力の移動に影響する諸要因 4. C. E. Bishop: 農業労働力における諸変化の経済的側面 5. Don F. Hadwiger: 農業労働力における諸変化の政治的側面 6. J. A. Beegle: 農業労働力における諸変化の社会的側面 7. R. M. Williams, Jr: 農業労働力の変動に関する以上の諸分析の検討 8. Howard Rosen: 職業構造および人口分布の予測 9. P. M. Raup: 農村社会における人口減少の経済的側面 10. M. J. Taves: 農村社会における人口流出の諸結果 11. L. W. Shannon: 移動農民の職業ならびに住居の調整 12. R. L. McNamara: 農民移動の都市に及ぼす影響 13. T. W. Schultz: 経済進歩より生ずる諸損失の再調整政策 14. R. K. Buck: 労働移動に対する商業的農民の見解 15. F. L. Fernbach: 労働移動に対する組織労働者の見解 16. Burton Seeker: 労働移動に対する実業家の見解 17. Loren Soth: 労働移動に対する一般人の見解 18. L. M. Thompson 他: 移動との関連における農村教育の改編 19. Roy Huffman 他: 移動との関連における農業政策の修正 20. A. L. Bertrand 他: 移動の結果必要となる家族および地域社会の調整に関するプログラム 21. Roy Solem 他: 移動との関連における非農業労働市場の職業紹介機構の改善

昭和30年以降の高度成長の段階において農村人口の減少がようやく顕著となるに至った日本にくらべ、はるかに早く、1920年代から農業人口の絶対減を示しているアメリカのばあい、農業人口の移動問題はすでに第二次大戦以前から農業問題の重要な一側面として、多くの研究ならびに調査結果が発表されて来ているが、本書の特色は、この農業それ自体はもとより国民経済全体に亘る様々の社会経済的諸問題と関連している複雑な問題を、上に見たような多面的な解度から概観していることにあるといえよう。本書でとり上げられた問題および分析結果は、現下の日本の農業問題とも多くの類似点をもち裨益する所も少くないが、その検討は他稿にゆずり度い。

(皆川 勇 一)